9　首都圏アグリファーム株式会社　　埼玉県入間市（いるまし）

農業、伝統の継承、農村環境・景観保全育

狭山茶の味と技術と景観を未来に継ぐ

活動の経緯

全国的にも知名度のある狭山茶が、近年、農業者の高齢化などにより、遊休農地化する茶園の増加で、狭山茶の将来が不安視されていた。このため、親会社の首都圏リース㈱が埼玉県農林部に相談し、2015年に地元狭山茶関連事業者とタッグを組んで法人を設立、狭山茶ブランド復活にむけた事業を開始。

活動の概要

伝統ある狭山茶の製法、技術、味を継承し、緑多い茶園としての景観を残し、日本茶の文化を伝承。

一面に広がる茶園風景

ほ場では、地元農業経験者が活躍

活動の成果、主な実績等

○農地バンク制度を最大限利用して、経営基盤の安定化を図るとともに、緑豊かな茶園景観を残してきた。法人設立時には10haの茶園が、2021年に68.1ha（うち農地バンク活用は51.5ha）となり、今後も拡大見込み。
○伝統ある狭山茶の技と味を継承するため、経験のある地元出身者を受け入れ、地域雇用の拡大にも貢献。また、ＡＳＩＡＧＡＰ（農業生産工程管理）の認証も取得。
○お茶の消費動向に合わせ、ペットボトル向け原料の供給により経営を安定させつつ、こだわりのある狭山茶商品を製造・販売して売上げも向上、ドリンクとリーフの共存共栄を目指す。